

総合的な学習の時間部会

研究主題 「総合的な学習の時間の趣旨を踏まえた授業改善の視点」

I 研究の概要

本部会委員の所属校は、総合的な学習の時間の指導體制を新たに作りつつある学校と、先行実施でその体制をほぼ完成させ、改善の時期を迎えた学校に二分される。高校により段階に大きな差はあるが、この時間の原点に帰り、この時間の趣旨を踏まえた具体的な授業改善の視点を明らかにすることは、重要な課題である。本部会では、この観点から研究に取り組むこととした。

まず、検証授業を実施して具体的に授業改善の視点を明確にする。次に、各委員の所属校において、様々な切り込み方で改善点を明らかにする。さらに、本部会として考察を加え、これからのこの時間の展望を提示する。

II 研究の目的

平成15年12月、学習指導要領が一部改正された。総合的な学習の時間については、各教科及び特別活動で身に付けた知識や技能等を相互に関連付け、それらが総合的に働くようにすること、さらに、各学校は総合的な学習の時間の目標及び内容を定め、学校の実態に応じた学習活動を行うものとされた。この一部改正の内容を踏まえ、総合的な学習の時間の趣旨に沿った授業改善は、急務の課題となっている。

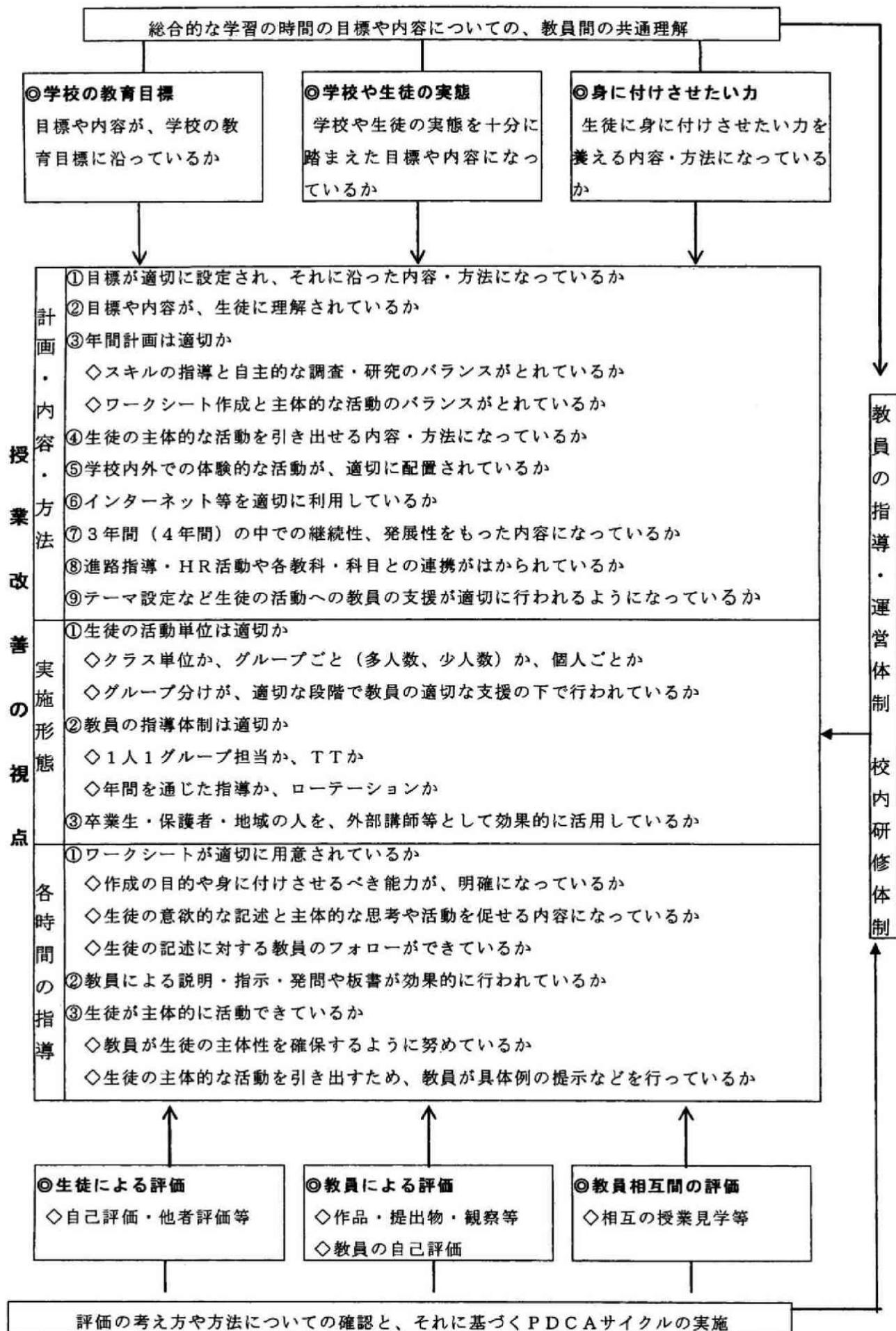
本部会は、各学校がこの時間の授業改善を図ろうとするとき、具体的に参考となる視点を明確にすることが重要であると考えた。各委員が所属校の課題を構造的に把握し、検証授業の成果を踏まえて、各学校が総合的な学習の時間を実践していく上で参考となる具体的な授業改善の視点を明らかにすること、これが本研究の目的である。

III 研究の方法

まず、先行実施に取り組み、現在、指導體制、方法、内容ともに整っている学校で検証授業を行うこととした。この授業を生徒の実態等を踏まえ、詳細に分析する。次に、この時間の趣旨に照らして、どこに改善の視点があるかを本部会で検討し、具体的に授業改善の視点を明確にする。検証授業については、発問や板書等についても分析を加え、この時間の趣旨に基づき、いわば思考を広め、深める授業であったかどうかを明確にする。また、今回の検証授業については、改善を要する点を明確にするだけでなく、評価できる点も積極的に明らかにし、具体的な改善の視点として提言することとした。

次に、検証授業と関連させながら、各委員の所属校において行われている総合的な学習の時間について、様々な切り口から改善点を明らかにする。先に述べたように、それぞれの学校では、この時間について様々な段階にあり、学校の実態も異なっている。したがって、学校の実状に応じた切り口についても参考にしていきたい。

これらの成果をもとに考察を加え、授業改善の視点を分類、整理し、研究の構造図(次ページ参照)をまとめた。これからの本時間の展望を提示しながら、持続的、継続的に授業改善が図られるような提言を行いたい。



IV 研究の内容

1 A高校の実践と分析

(1) 目標

- ア 自己の進路についての関心を高め、上級学校や職業について意欲的に追究し、自己が果たすべき社会的役割と在り方生き方について考えようとする態度を養う。
- イ 構成的グループエンカウンター(以下SGEと表記)等の方法を活用して、自己の進路や適性について、自分の個性や現代社会の状況に留意しながら多面的・多角的に考察し、自己が果たすべき社会的役割と在り方生き方について公正に判断する能力を養う。
- ウ 自己の進路に関連する資料を適切に収集、活用し、発表や対話を通じて上級学校や職業について追究しながら考えたことをワークシート等に記入することを通じて、自己表現の仕方を身に付ける。
- エ 上級学校で学ぶ学問、様々な職業について自己を取り巻く社会的状況を踏まえた上で理解し、その知識を身に付ける。

(2) 指導と評価の計画(第2学年 70時間分)

ア 授業の流れ

学期	ねらい	月	回	内 容	形態	改善のポイント
1	自己理解・受容、他者理解・受容、興味・関心、職業観	4	1	全体オリエンテーション	学年 ユニット(2クラスを 4分割)	・学校や生徒の実態を踏まえて目標や内容を設定しそれを生徒に理解させているか。
			2	ユニットごとのオリエンテーション・ねらい確認・SGE「他己紹介の輪」「気になる自画像」		
		5	3	SGE「無人島SOS」(自己理解)	ユニット	・生徒に身に付けさせた力を養える内容、方法になっているか。
			4	SGE「好感度1位は？」(他者理解)		
6	5	SGE「10年後の自分」(将来像)	ユニット	・体験学習等を実施し学校外の施設を積極的に活用しているか。		
	6	進路適性検査				
7	7	SGE「気になる職業」(職業観)	見学校別	・上級学校に目標や内容が伝わっているか。		
	8	上級学校見学会				
2	職業観、適性、学校選び・研究、選択科目決定	9	9	上級見学会報告・ワークシート「気になる職業」	ユニット	・目的や内容に応じて様々な学習形態を工夫し、柔軟に対応できているか。
			10	分野別チームオリエンテーション		
		10	11	ワークシート「仕事を調べてみよう」	分野別チーム	・調べ方等のスキルを示し応用できるようにしているか。
			12	「学校を探そう」「学校を選ぼう」		
11	14	3学年次選択科目についての説明	分野別チーム	・生徒が自ら進んで探究活動に取り組む態度を育てることができたか。		
	15	選んだ分野・職業について探究				
3	進路探求、進路実現への努力	1	17	SGE「進路発達度チェック」(自分の課題・問題点とその対策)	分野別チーム	・形成的評価で、指導と評価の一体化を図っているか。
			18	進路希望、振り返り、自己評価		
		2	19	進路実現に向けて	分野別チーム	・学習内容に応じて卒業生や保護者、地域と協力しているか。
			20	進路講話(先輩の進路体験をきく)		
		3	21	志望進路受験時の志望理由書作成	分野別チーム	・学習の成果を踏まえた自己評価ができているか。
22	受験計画書の作成、振り返り、自己評価					

イ 授業の展開例（9月第9回）

導入	改善のポイント
<p>①出席を確認。座席はクラス・出席番号順とするとよい。個人ファイルを返却。</p> <p>②本時のねらいを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な職業を知る。 ・自分の興味・関心を持った職業を検討する。 ・目指す職業になるための過程（学校、資格・技術など）を知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校内研修会や学年会で情報交換を行い、1時間ごとのねらいを教員が確認しているか。
<p>展開</p> <p>①ワークシートを配布する。 パソコンを起動し、インターネットに接続できる状況にする。</p> <p>②以下のような説明を行う。</p> <p>「前回までに、自分の将来像を明確に描くことができたでしょうか。また前回は世の中の様々な職業について自分の興味・関心の度合いを確認する作業でした。」</p> <p>「今学期は同じような進路希望の人たちが集まっています。その中でも、その職業について明確に認識できているか、他の職業についての興味関心は人によって様々ではないでしょうか。」</p> <p>「今回はITを活用して、様々な職業について考えることにより、現在の進路希望について明確に認識するとともに、他の職業についての認識を持ち、広い視野を持って進路探索をできるようにしましょう。」</p> <p>③ワークシートのアドレスを参考に進学情報サイトを開かせる。</p> <p>④「様々な職種について、自由にいくつか検索してみましょう。」</p> <p>「自分の興味・関心のある職種、前回ワークシートで内容が分からなかった仕事、全く興味・関心はないけど気になる職種など…」</p> <p>「できる限り多くの職種について検索するように。世の中には、自分の知らない職種が数多くあります。もしかすると知らなかった職種に対して興味をもつかも知れません。」</p> <p>⑤自分が興味・関心をもった職種について、次の項目を記録させる。</p> <p>(ア)職種名 (イ)仕事内容 (ウ)なるにはチャート</p> <p>高校卒業から就業職種まで、自分が進む可能性のあるチャートをすべて記入する。</p> <p>⑥時間があれば、その他興味ある項目を見る。</p> <p>『〇〇の仕事のをぞいてみよう!』『お仕事人のインタビュー』『〇〇について先輩に相談しよう』など、リンクがあれば更に見てみましょう。」</p> <p>⑦学習を通して、気付いたこと、意外に思ったことをワークシートに記入する。 (時間があれば)他の生徒と、気づいたこと・意外に思ったことを話し合わせる。 「どうだった?」と、生徒に感じたことを尋ねたりすることで意見交換を促す。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒が行うべきことを、過不足なく理解できるような説明になっているか。 ・様々なメディアにアクセスできるような学習環境を準備できているか。 ・適切な作業や活動の時間を確保できているか。 ・作業の様子を見ながら次の作業を指示できているか。作業の早い生徒に合わせてよいか。 ・ワークシートに無理に全記入を強制しないよう配慮できているか。 ・生徒が意見交換したり話し合ったりしながら学べるようにしているか。

<p>まとめ</p> <p>①「進路希望が『決定済み』という人もいれば、『とりあえず』という人もいます。いずれの場合でも、今考えている職業だけでなく、世の中にある様々な職業について知り、選択する事が大切です。」</p> <p>「進学希望の生徒も、今回の取組を通して、どの学部・学科・系統を目指すべきなのかを考える材料にしてください。」</p> <p>などの説明を加え、本時やこのあとの学習のねらいを確認する。</p> <p>②ワークシートを回収して、終了する。</p>	<p>・本時の意義について、生徒に分かりやすく伝えるか。</p>
--	----------------------------------

ウ 授業観察者の分析と考察

本時の展開（午後2時5分から午後2時55分まで）は、授業冒頭は各ホームルーム教室で担任から分野別グループの確認を受け、それから生徒たちは分野別に割り振られた教室に分散していく。そのため、実際に筆者の観察した保育・幼児教育系のグループで学習作業がはじまったのは本時がはじまって15分後であった。担当教員は、観察校の有力な部活動の指導者で、個性的な性格から、生徒とは十分な関係性を有していた。担当教員が生徒にゆさぶりを与えた発問として、以下を指摘できる。

- Ⓐ 15分後 「この教室に集まった人たちは、もう職業が決まっているぞ」
- Ⓑ 32分後 「『子ども』っていっても、それぞれにいろんな事情があるんだからな」
- Ⓒ 41分後 「その職業につくための条件を調べてみなよ」

Ⓐの発問は、分野別グループ学習のはじまりの発問である。このグループが幼稚園や保育所という特定の職場で働く人「幼い子どもたちの先生」を目指すという特殊性を生徒たちに示している。生徒たちにこの教室に集まった「意味」を与えている。

Ⓑの発問は、パソコンでの作業中に発せられたものである。ステレオタイプに陥りがちな「幼い子どもたちの先生」観を打破し、自立支援施設に暮らす児童や療育手帳を有する児童を視野に入れるよう、生徒たちの思考の「枠」を広げている。

Ⓒの発問は、パソコンでの作業をワークシートにまとめる作業中に発せられたものである。この教室に集まった「意味」を考え、「枠」を広げ、「どんな大学や専門学校がいいか」ではなく「条件」とくくることによって、今後、選択すべきトラックを「探究」する態度を形成させている。また、これらの発問とともに、適切に板書を行い、教科指導の延長に総合的な学習の時間があることを意識させられた。それはまさに、平成15年12月に一部改正された学習指導要領で、総合的な学習の時間が「全教育活動との関連の下」に全体計画を作成するものとされていることに結びついている。

以上のように、思考を狭める発問が一つもなく、それは、総合的な学習の時間の本質につらなるものであり、担当教員の、学ぶ「意味」を確認し、生徒の思考の「枠」を広げ、それを「探究」へと深めている実践は、今後の研究に示唆を与える。ただし、本実践において、生徒が本時をどのように自己評価できるか、つまり、指導と評価の一体化という課題は残っている

2 B高校の授業改善の視点

(1) B高校の現状

本校の総合的な学習の時間は、生徒が夢を実現していくために、「橋渡し」の役割を果たすという意味を込め「ブリッジ」と命名し、開校1年目の平成16年度より実践してきた。

新設校のため、完成年度まで多くの教員が転入する。年度当初に、転入者を対象とした「ブリッジ」の研修会を実施している。その際、次の内容を確認している。

- ・認識と体験、個人と集団のバランスに配慮しながら、体験活動を確保すること。
- ・ワークシート作成の目的を再認識し、身に付けるべき能力を明確にすること。
- ・運営指導体制の定着を図り、PDCAサイクルを計画的に実施すること。
- ・評価の考え方と方法、手続を開発し、学校全体で確認すること。
- ・各教科・科目との関連を図ること。例えば、現代社会のスキルのページを活用すること。

(2) B高校の成果と課題

ア 主な成果（さらに発展させていく視点）

- ・年度末の「ブリッジ」発表会に向けて、目的意識と意欲の高まりが見られる。
- ・発表会を体験した一期生は、他の生徒から学ぶ姿勢（相互評価）の姿勢を持つ。
- ・表現力の育成の学校方針と関連して、発表する力が育成されつつある。例えば、地域調査、文化祭の方針、アメリカンサマーキャンプ等での発表機会の設定等。
- ・ワークシート等の取組により、書く能力の向上がみられる。例えば、大学教授の講話を聞き、板書がなくてもまとめる力などが向上している。
- ・大学レベルの授業を理解しようとする意欲や姿勢、質問する力が育ちつつある。

イ 主な課題（授業改善の視点）

- ・生徒の主体的な活動を、どの場面でいかに確保するかは共通理解が不足している。
- ・体験活動の選択肢をいかに保証するか、大学や関係機関との連携がさらに必要である。
- ・志望系統別グループをどの程度きめこまかくできるか、検討を加える。
- ・ワークシート作りと主体的活動《体験活動を含む》のバランスを工夫する。
- ・1年次と2年次の内容をいかに明確に発展させるかを研究する。
- ・「ブリッジ」の時間と進路指導計画との有機的な関連をいかに図るかを検討する。
- ・この時間の本来の目標を常にチェックし、改善を図れる様な組織作りを図る。

(3) 授業と具体的な授業改善の視点

ブリッジセミナーとは、12のグループによる分野別ごとに、大学等の先生を呼び、講話を聞き、協議して具体的に進路を考えることを目的とするものである。アンケートを実施し、具体的な改善の視点が浮き彫りになった。

ア 事前準備がやや不十分であったことが、質問ができなかったことにつながっている。

イ 講義を理解できた生徒は認識しているが、内容のある質問ができなかった。

ウ 内容のある講義が多かったが、他の分野の講師から学ぶ能力がやや不足している。

来年度改善の視点として、本来のグループ分けの時間を十分にとること、生徒が主体となってグループを選ぶこと、教師が適切に支援できるように研修を深めることが必要である。また、「ブリッジ」企画会議を毎週月曜日に確保することも重要である。

3 C高校の授業改善の視点

(1) C高校の現状

全体の構成
未来を拓く

一人一人が自己の可能性を開花し、たくましく将来に向かっていくための手助けをする時間と位置付けている。

学年別テーマ 担任が担当し、各IPR単位で行う。生徒は、テーマに沿ったワークシート用紙に文章を記入していく。1学年で自己を見つめ、2学年で自己の可能性を探り、3学年で、自己の進

講座別学習 各教員が、個人の特技、趣味、教科を生かした講座を開講し担当する。50分間を1ポイントとし、必ず振り返り学習（レポート、ワークシート、感想文）を行う。

(2) C高校の成果と課題

主な成果としては、1年生から自己理解を深め、卒業後の進路を見据えた進路学習を行うことにより、進路未決定者の減少、進学率の上昇する傾向が見られた。また、振り返り学習（レポート、ワークシート、感想文）を行うことで、生徒の「書く力」の向上につながり、結果としてAO・推薦入試の合格率が上昇する傾向が見られた。一方、学校全体の取組としては、問題点をお互いに自由に出し合い改善策が話し合われていくと、さらにこの時間の充実が図られることとなる。

主な課題	具体的改善の視点
生徒の自主的、主体的な活動の視点にたった内容にするにはどうするか。	同窓会人材バンクを作り、継続的に講演会を開催し先輩から色々な生き方を学ぶ。1年の終わりに発表会を催す。
ワークシートが穴うめ作業に陥っている。主体的に取り組ませるにはどうすべきか。具体例「1学年入学直後の2回のワークシートは、70%の生徒が負担と感じた。」	ワークシートは、「自己分析の基礎データ作り」と捉える。担任が生徒と往復書簡を行い、生徒が自己を見つめる手助けをする。さらに、小グループの生徒間同士で交流を行い、他者から見た自分の姿を知る。
学年別テーマは、進路指導の内容とHR活動の内容を統合して構成されている。両者の枠組みの曖昧さを解消し、明確にする。	学習内容は、進路指導の内容のみを扱うこととする。空いた時間には、調べ学習を取り入れた事前学習を詳細に行い、「進路ガイダンス」の内容を更に充実させる。
講座別学習では、生徒の興味・関心により履修希望が偏り、希望しない講座を受ける生徒の意欲が低下している。講座の内容、評価、生徒への指導等に生じる講座のばらつきをどうしていくか。	「国際理解、情報、社会環境、福祉、健康・スポーツ、古典芸能・道（どう）」など、群を作り、その中でバランス良く講座を開講していく。指導内容、形態、方法の研究をし、指導教員の共通理解を図る。

4 D高校の授業改善の視点

(1) D高校における総合科目の設置概要

総合学科においては、総合的な学習の時間における学習活動として、原則として「生徒が興味・関心、進路等に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る学習活動」を含むこと、と学習指導要領に規定されている。そのため総合学科高校であるD高校では、以下のように総合科目及び総合的な学習の時間を各年次に2科目ずつ計12単位設置している。

1年次「産業社会と人間」・・自己認識や人間関係作りと地域理解学習及び進路学習

「系列学習基礎」・・系列科目の総合的な学習から次年度以降の履修や進路を考える

2年次「ボランティア・福祉活動」・・ボランティアや福祉についての基礎知識と社会体験

「総合的な学習の時間（基礎研究）」・・調査研究方法の学習

3年次「生活実践」・・生活における知識と工夫及びマナー学習

「総合的な学習の時間（課題研究）」・・各自の課題を探求し、形あるものとして発表

(2) D高校における総合的な学習の時間のねらい

総合的な学習の時間の前半2単位となる講座である「基礎研究」では、課題探求型の学習の基礎として、『自ら課題を見つけ、自ら学び自ら考えさせることで、問題を解決する力を育てる』『情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方などの学び方やものの考え方を身につけさせる』の2つをそのねらいとしている。今回の研究ではこの「基礎研究」についての授業改善の流れについて報告する。

また、後半2単位の講座「課題研究」では、『自ら課題を見つけ、学び・考え、主体的に判断して問題を解決して、レポート、作品、演奏などのかたちあるものとしてまとめること』をねらいとし、生徒の希望を重視し、D高校の中心となる3つの系列（生活福祉・創作表現・製作技術）から6つの分野（生活・福祉保育・音楽・美術工芸・ものづくり・情報）にほぼ均等になるように分け、1年間かけて自分の設定した課題追究型の調査・研究・製作を行っている。文化祭での中間発表を経て、年度末の学習成果発表会での発表（口頭・展示）を行うことを最終の目標としている。過去3年間大きな変更は行われていない。

(3) 成果と課題

実施の前年度より、総合的な学習の時間に関する事項を検討する委員会を設置し、指導内容、実施形態等を決定した。実施年度ごとに、生徒による授業評価・生徒の自己評価・教員の自己評価・授業時間内での指導と評価・校内研修などに基づき、見直しを重ねてきている。それに伴い、指導内容の充実が図られ、生徒からの評価も上がっている。具体的な4年間の改善の流れは次ページの表にまとめてある。改善に関しての最大の課題は、各年度により、指導する教員が大きく変動することと、生徒の質も異なり、その生徒集団や個に応じた指導を計画するための時間の確保が難しいことである。

(4) 今後の改善の視点

ティームティーチングの効果的な活用を含めた、指導形態や指導方法の研究を行う必要がある。また、生徒による授業評価を活用し、指導内容の検討を行い、指導教員の共通理

解を図らなければならない。集団指導では、一部の担当者の指導案や配布資料を各教員が理解の浅いままでもそのまま使用する場合も生じがちである。担当する生徒は当然異なるのであるから、事前によく検討し、必要に応じて変更しなくてはならない。その指導結果は次に反映し、個に応じた指導の充実を図る。

(5) 4年間の改善の流れ

	1年目	2年目	3年目	4年目
指導形態	1クラスを3つのグループに分け、3人の教員がローテーションで指導を行う。	1クラスを3つのグループに分け、前期は3人の教員が1グループを担当し、後期は3人の教員がTTで指導を行う。	1クラスを3つのグループに分け、1年を通してそれぞれを3人の教員が1グループずつ担当し指導を行う。	2クラスを10のグループに分け、前期は5人の教員がTTで指導を行う。後期は1人の教員が2つのグループを担当し指導を行う。
指導方法	各ローテーションの中で調べ学習の方法を学習する。	前期は調査・研究の仕方を学習し、後期は個人ごとにテーマを決めて前期の学習を生かした調べ学習と発表を行う。	前期は調査・研究の仕方を学習し、後期は個人ごとにテーマを決めて前期の学習を生かした調べ学習と発表を行う。	前期は調査・研究・発表の仕方を学習し、後期はグループごとにテーマを決めて前期の学習を生かした調べ学習と発表を行う。
指導目標	領域に応じた調べ学習の方法を選択し、実践を通して、調査・研究の方法を身に付ける。	領域に応じた調べ学習の方法を選択し、実践を通して、調査・研究の方法を身に付ける。	調べ学習の方法を実践を通して学び、調査・研究・発表の方法を身に付ける。	調べ学習の方法について、実践を通しながら学ぶ。1つの学習課題毎にグループ発表を行い、コミュニケーションやプレゼンテーション能力の育成を重視する。
学習領域	健康・文化・環境について学習する。	健康・文化・環境について学習する。	学校生活など身近なテーマを学習材料にするが、生徒や指導する教員により異なる。	学校生活など身近なテーマを学習材料にする。
主たる学習内容	アンケート インタビュー 文献・新聞調べ PCソフト	KJ法 アンケート データ処理 (統計・図表) 文献・ウェブ・新聞 企画書 プレゼンテーション (掲示物・PCソフト)	KJ法 アンケート データ処理 (統計・図表) 文献・Web プレゼンテーション (掲示物・PCソフト)	数値処理 (測定・集計・図表) 討議(ゲーム・KJ法) 調査 (アンケート・Web・インタビュー・文献) 発表方法 (口頭・パネル・紙芝居・PCソフト)
問題点	ローテーションにより3つの領域を学習することが出来るが、各期間が短く、掘り下げた学習が出来ない。	学習領域と生徒の興味・関心が異なる場合が多い。	個人研究ではコミュニケーション能力の育成につながりにくい。指導する教員による差が大きくなる。	前期が大人数になる。TTをうまく生かしきれない。
改善点		ローテーション方式をやめて、前期をスキルトレーニング、後期を個別研究とした。	1人の教員が責任を持って1年間指導を行うようにした。	前期からプレゼンテーションに重点を置き、また、グループでの発表では必ず毎回、相互評価を行うことにした。

V 研究の成果と課題

1 研究の成果

本部会では、前年度の部会で提示された、ア 学習指導要領の趣旨を踏まえ、各学校の教育目標・経営計画と関連付けた実践が大切であること、イ 様々な実践の交流が重要であること、などの課題を受け、(1) この時間の目標やねらいが学校や生徒の実態を踏まえたものとなっているか、(2) この時間の内容や方法が、学校目標に沿って想定された生徒に身に付けさせたい力を充分培うことができるものとなっているか、との観点から、各委員が所属校の実践を検証し、具体的な授業改善の視点を明らかにすることが目的であった。各校の実践を委員会で検討した結果、次のことが明らかになった。

- A 高校…年間目標・計画や1時間ごとのねらいが明確であるだけでなく、各時間の授業の進め方がマニュアル化されているため授業の進行が統一されており、担当教員はそれを踏まえて工夫ができる。
- B 高校…学校目標とこの時間の目標や内容がより緊密に結び付いており、認識と体験、進路理解と自己表現、というふうに生徒が身に付けるべき力を明確にした運営指導体制が構築されている。
- C 高校…進路指導やHR活動との連携が図られた内容や方法が取られており、卒業生との交流やワークシートを効果的に活用することによって、生徒の基本的な生活能力や自己表現力の育成が図れるような内容になっている。
- D 高校…この時間の趣旨を3系列の講座学習に振り分ける構造となっていて、3年間の中での継続性、発展性をもった内容になっているだけでなく、その内容や方法について、学習単位から指導目標まで、毎年度の生徒の実態を踏まえてよりよいものに改善していくための検討組織が確立されている。

このことから、次の諸点が本部会の成果としてあげられる。

- ア 進路学習であれ課題研究であれ、自己の在り方生き方や興味・関心と課題追究とのバランスを重視した指導計画、指導内容・方法の改善は強く求められている。この点に関して、本稿で紹介した各校のこの時間についての実践と、実際に行われている、あるいはこれから行うべき改善の方策やポイントについて明示することができた。
- イ 生徒の興味や関心を高め、生徒がどのような力を身に付けるべきかを明確にしながら主体的な学習を促す教材の開発について、またその教材を生かし、授業を進めていくための改善のポイントを示すことができた。

2 研究の課題

本部会の研究開発で、同時に課題も明確になった。

- ア 生徒の主体的な活動を確保すること。例えば、認識と体験、個人と集団のバランスに配慮しながら、体験的な学習を促す必要があること。
- イ ワークシート作成の目的を再認識し、生徒の身に付けるべき力を明確にして、全体計画を改善する必要があること。
- ウ 運営指導体制の定着を計り、PDCAサイクルを計画的に実施する必要があること。
- エ 評価の考え方と方法、手続きを明確にし、教員全体で確認すること。
- オ 各教科・科目、進路指導やHR活動との関連を明確にすること。例えば、公民科現代社会における課題追究のスキル学習部分の活用など。